

「慣れ合い。」

登場人物

万紀子 —まきこ— (30)

彩香 —あやか— (30)

通彦 —みちひこ— (31)

通彦のマンションのリビング。正面にサッシがあり、奥にベランダが見える。上手にはキッチン、玄関へ続くドア、下手の引き戸は寝室へ。

夕方時、リビング中央のソファに通彦が大きくうなだれるようにして腰を下ろしている。頭が真っ赤な血で染まっている。

引き戸の前には、プードルが不自然な体勢で横たわっていて微動だにしない。夕陽の射すベランダに、彩香が背中向きに立って下を覗き込んでいる。

ドアの前には、たった今入ってきた万紀子が立ちすくみ部屋を見ている。

飛行機が遠くを飛んでいる音。

と、彩香がリビングに入ってくる。

万紀子 …説明して。

彩香、無言のまま万紀子の横を抜けてキッチンへ。

万紀子 (恐る恐る通彦を見て) …。

彩香、ティーカップを持って戻ってきて、またベランダへ。

万紀子 ねえ、彩香…。

彩香、万紀子を見無視し、おもむろにベランダの外へカップを落とす。

カシャンという小さな音。

万紀子 え？…何してるの？

彩香 …。

万紀子 ねえ、彩香。

彩香 見て。

万紀子 え？

彩香 ほら。(下を見るように促す)

万紀子 …。(ベランダへ出て、下を覗き込み) え…何？あのふんだんに散乱しまくっているモノたち…。

彩香 ね。

万紀子 …ねって？何？

彩香 何って？

万紀子 え。

彩香 見たでしょ？
万紀子 見た。…何？
彩香 何って何？
万紀子 え、ちよつと待って。何の話？
彩香 え？
万紀子 え？
彩香 だから、見たでしょ？
万紀子 見たって…。え、どっち？
彩香 どっち？（下を覗き込む）
万紀子 …駐車場がゴミ捨て場状態なのは。
彩香 ね。
万紀子 ねって？
彩香 ねって？って？
万紀子 待って待って。なんか戻ってる。
彩香 戻る？
万紀子 …整理させて。
彩香 整理？何を？
万紀子 だって…。え、そうだよね。（ソファの通彦を見る）
彩香 見たままでしょ。バカなの？
万紀子 …そこそこ混乱しているから。
彩香 凄い気持ちいいの。
万紀子 は？
彩香 見つけちゃった。最高。
万紀子 気持ちいい？
彩香 落ちていって砕け散るのをじっと見てると。
万紀子 …あのさ…。
彩香 気持ち良過ぎて漏らしそうになる。あんたの大好きなセックスなんかより余っ程。
万紀子 …。
彩香 スーツと小さくなって行ってさ、一瞬間が止まったみたいになるの。一瞬。で、次の瞬間、音もなくファーンって弾けて広がって。なんかもうたまらなくなる。
万紀子 …ファーン。（再び下を覗き込む）
彩香 征服感みたいなのが凄い。漏らしそうになる。
万紀子 彩香が落としたの？あの…あんなに一杯。
彩香 そう云ってるよね、さっきから。
万紀子 なんて？
彩香 だから気持ちいいんだって。人の話聞いてないよね、昔から。

万紀子 …。

彩香 やっぱり割れ物が一番かな。割れて飛び散ったのがテラテラって。それぞれの良さがあるんだけど。

万紀子 …テラテラ。

彩香 あ。でもさ、この部屋の高さがちょうどなんだと思う。もっと低いといい具合に弾けないだろうし、もっと高いと遠過ぎてテラテラが伝わってこないでしょ、きつと。

万紀子 何のうんちく？

彩香 絶妙なんだな、やっぱり。(下を覗き込む)

万紀子 待って待って。

彩香 え。

万紀子 違う違う。相当違う。

彩香 何？

万紀子 他に話すことあるでしょ？

彩香 他に？

万紀子 あるよね。

彩香 何？

万紀子 だからあるじゃない！…そうでしょ。あるよね？まず話すこと。

彩香 …。(リビングの中へ)

万紀子、追ってリビングへ入ってきて、改めて通彦を見る。

彩香 …久しぶりだったね。

万紀子 そうじゃなくて。

彩香 どう思った？

万紀子 え。

彩香 さっきのティーカップ。

万紀子 違う。そんな話じゃない。

彩香 何云ってるの？

万紀子 連絡しないと。

彩香 え？

万紀子 え、じゃなくて。

彩香 どこに連絡するの？

万紀子 だから救急車とか…。

彩香 …。

万紀子 そうでしょ？

彩香 なんてって訊かないんだ。

万紀子 え？

彩香 救急車？

万紀子 だって…あんなに血が出て…。

彩香 っていうか、まず何があったのか訊くんじゃない？

万紀子 …。

彩香 頭おかしいと思ってるの？

万紀子 は？

彩香 二度と目を覚まさないように、息の根止めてやろうって頭カチ割ったのに、なんで救急車呼ぶのよ。頭おかしいでしょ。

万紀子 …殺し…たんだ。

彩香 大学の時から思ってたんだけど、万紀子ってさ、あれだよな？フォクシーのワンピース着て見てくれだけは意識しといて、下着はエロければ安物でいいみたいなところあるよね。

万紀子 …どういう意味だろ？それ。

彩香 よし、不倫しようってなったら何でもアリ？見境なくなるの？

万紀子 …そんな意気込んでないけど。

彩香 昔からそうだったでしょ。欲望の制御不能。欲ボウソウっていうか。

万紀子 何を云われてるの？

彩香 思い通りにしたいだけなの。自分を崇める男ならOKで。

万紀子 そんなことない。

彩香 凄ーい。その口。よく云える。

万紀子 …。

彩香、ソファに廻り込もうとして、足元のプードル犬を蹴飛ばす。

万紀子 えー！

彩香 …何？急に大きな声出さないでよ。びっくりするじゃない。

万紀子 …何てことするの。

彩香 見れば分かるでしょ。死んでんだから。来て何分経ってんのよ。

万紀子 そんな猛スピードで受け入れられる状況じゃないから。

彩香、ソファの通彦の隣に腰を下ろす。

万紀子 (恐る恐るプードル犬に歩み寄り)…なんで？ひどいよ。

彩香 どうせ万紀子にも懐いてたんでしょ、そのバカ犬。バカがバカに。

万紀子 …。

彩香 前からイラついてたんだよね。餌くれりゃ誰彼かまわず尻尾振るんだから。信念も何もないの、バカ犬の典型。

万紀子 でもそれは…。

彩香 バカばかり。

万紀子 …。

彩香、不意に立ち上がり、無造作にプードル犬を掴んでそのままベランダへ。

万紀子 え？え？…ちよっと！何してるの？

彩香、プードル犬をベランダの下へ落とす。

万紀子 (思わず) あー！

彩香、下を覗き込んでいる。

万紀子 …嘘でしょ。

彩香、不満げにリビングに戻ってきて、再びソファへ。

彩香 全然ダメ。ベチャって。何？あれ。ベチャって。地味。全っ然面白くない。

万紀子 地獄なの？ここ。

彩香 少なくとも天国じゃない。何を見てもあんたの顔がチラつく。

万紀子 …分かった。分かったよ。

彩香 ねえ、座ったんでしょ？このソファに。何回？

万紀子 え。

彩香 何回座ったの？

万紀子 …もう止めない？分かったって。

彩香 何が？

万紀子 …。

彩香 何したの？ここで。

万紀子 そんなこと訊かなくてもよくない？

彩香 何回？

万紀子 …数えてない。

彩香 あ、そうだよね。いちいち数えてないよね。私がない時にここに何回来て何してたかなんて。数えてて、あ、25回来てここでセックスしたの！ってほざいたら寧ろ怖いよね。ごめんね、訊いた私が変わだね。…ってバカ！

万紀子 …そんなに来てないよ。

彩香 何？

万紀子 …。

彩香 何て？

万紀子 …何でもないです。

彩香、いきなり立ち上がりドアへ。

万紀子 どこに行くの？

彩香、そのままキッチンへ。

万紀子 無視だよね。…うん。

万紀子、恐る恐るまた通彦を見る。

飛行機が、先程より近くを飛ぶ音。

彩香 (ティーカップとティーポットを手に戻ってきて) お茶飲む？ (座る)

万紀子 ……私は。(首を振る)

彩香 (お茶を注ぎ) カップ、一個しかないけど。

万紀子 ……さっきね。(ベランダを見る)

彩香 飲まないの？

万紀子 飲まないっていうか、飲めないんじゃないかな、この場合。

彩香 なんで？飲まないの？

万紀子 だから私は…。彩香が飲んだら。

彩香 あ、そっか。せっかくだから私が飲むね。…って云うわけないでしょ！バカじゃないの。

万紀子 ……どうぞお構いなく。

彩香 (カップを手に立ち上がり) これ、万紀子がくれたんでしょ？

万紀子 ……

彩香 でしょ？

万紀子 そうだったかな。

彩香 おかしいとは思ったの。ウェッジウッドなんて興味ない人なのに、唐突にこんなを買ったって帰ってきて。…でもさ、私もバカだからちよっと嬉しくてさ、思わず何度も使っちゃったわよ。(笑う)

万紀子 ……そう。

彩香 (笑い続け) ハハハ…。

万紀子 ……

彩香 (笑い止まらず) ハハハハ…。

万紀子 ちよっと…。

彩香 (大爆笑) ハハハハ…。

彩香、笑いながらそのままベランダへ。

万紀子 ……地獄みたいね、どうやら。

彩香、カップをベランダの下に落とし、戻ってくる。

カシヤンという小さな音。

万紀子 私が断ったから…じゃないよね。

彩香、今度はティーポットを手にし、再びベランダへ。

万紀子 ……止まらないね。

彩香、ティーポットを下に落とし、少し重めのガシヤンという音。

彩香 (戻ってきて) 本当漏らしそう。やっぱり割れ物だわ。

万紀子 若干慣れてきた自分が怖い。

彩香 このソファも落としたい。

万紀子 ……駐車場を自分の領土にするつもり？

彩香 ねえ、どこに座ったの？(ソファを手で叩き) どの辺に？

万紀子 …どの辺って。

彩香 あんた、邪魔。

彩香、ソファから通彦をぞんざいに押し退けようとする。

万紀子 え…。ちよっと…何してるんだろ？

彩香 こいつ、重っ！（ひっぱたく）

万紀子 …。

彩香 （押しながら）無駄に重っ。

万紀子 ねえ…。止めなよ。

通彦の上半身がソファの脇から押し出されて、垂れ下がるようになる。

頭が床に当たり、ゴツンと音がする。

彩香 無駄な重さなんだけど。あー無駄過ぎる。

万紀子 ねえ、彩香。

彩香 …。

万紀子 ねえ、なんで分かったの？

彩香 なんでバレたかってこと？

万紀子 私たち、一ヶ月前に別れたんだよ。

彩香 …。

万紀子 なんで今更…。

彩香、ソファテーブルの上の血のついたガラス製の灰皿を掴み、ベランダへ。

万紀子 …。

彩香、灰皿を下に落とし、これまでとはまた違うガシャンという音。

満足そうに戻ってくる。

万紀子 …部屋からモノなくなっちゃうよ。

彩香 こいつがぶちまけたよ。訊いてもないのに。

万紀子 え？

彩香 全部。聞かされた。

万紀子 …なんで？だってもう別れたのにそんなこと話す必要がある？

彩香 逆にさ、墓場まで持っていくとでも思ってた？自分のために。…サムイよ、あんた。男漁ってきたくせに何にも分かってないんだね。本当自分しか見えてないんだから。

万紀子 …。

彩香 そういえばさ、あんた一回男に浮気されたことあったよね？あの時皆にあいつのこと無視させて排除しようとしたよね。自分可愛さに狂気すら感じる。

万紀子 …。

彩香 こいつもバカだけだね。まさか頭カチ割られるとは思ってなかったんだらうから。云っとくけど昔から女の子の間じゃ有名だったんだからね。万紀子と何か約束と

かしたって、しれっとした顔で平気でなかった風にするから信用できないって。

万紀子

…ちよっと待ってよ。

彩香

結婚するんでしょ？今度。

万紀子

…え？

彩香

自分にとつてもっとメリツトのある男が現れたからそっちに行ったんだよね。

万紀子

…え、おかしくない？当然でしょ？ちゃんと好きな人が現れたら、清算するでしょ、その人のために。こういう関係は。

彩香

当然って云っちゃった。

万紀子

だから…。

彩香

その人のためじゃないでしょ。それただただ自分のため。あんたの面の皮は鋼鉄製のなの？

万紀子

…。

彩香

誰があんたの幸せに涙を吞んで納得なんかすんのよ。よくそこまでバカポジティブに考えられるよね。本当そういうところ。サムイ。ずっと。

万紀子

あのさ…。黙って聞いてたら人のことそんな男好きの自己中みたいな云い方してるけどさ、彩香のほうが恋愛体質じゃない。いつも男の目気にして、昔から。

彩香

(笑って)…何云いだしたんだろ？

万紀子

散々聞かされたよ、通彦にも。彩香が電話してる声聞いただけで、相手が男か女か分かるって。男への意識が半端じゃなくて。

彩香

は？

万紀子

サークルのとき、自分のものに何でもかんでもシールとか貼ってたでしょ？自分で名前のデコレーション作っちゃって。ayaって、aの丸のとこハートの形にして。客観性ゼロの相当ダツサイやつ。

彩香

…何をほじくり出してきたの？

万紀子

それで男ができたならそれ貼らせてたよね？男の携帯とかにも。自分の信者かって、イタ過ぎて正直ドン引きだったから、周り。しかもサトミが無理矢理は良くないんじゃないって云ったら、ほっときなさいよ！ってとんでもなくブチ切れたよね。

彩香

…。

万紀子

(部屋を見渡し)性格は相変わらずだけどさすがに貼ってないね、家にシールは。

彩香

…。ただ自分ファーストでも。

彩香

…。止めてくんない？サムイから。背中に電流走ったんだけど。

万紀子

…。

彩香

通彦って呼んでたんだ？通彦…。通彦？…あー電流。自分は何て呼ばせてたの？

万紀子様？

万紀子

もういいよ。

彩香 知ってる？昔、あんたに捨てられた男に自分が何て云われていたか。
万紀子 え？

彩香 独裁者。

万紀子 …自分でしょ、それ。(笑う)

間。

再び、今度は飛行機が遠ざかっていくような音。

万紀子 …しんどい。(笑って) 何やってんだろ、私たち。

彩香 …。

万紀子 話せば分かるって。いつも彼。話し合うのが大事だって。(笑う)

彩香 …。

万紀子 …そこで笑ってたりして。聞いてて。

彩香 え？

万紀子 ただの優柔不断だと思ってたけど。

彩香 …。

間。

彩香、通彦の体を起こそうとする。

万紀子 何？…何しでしたの？

彩香 落とすの、こいつも。

万紀子 は？

彩香 自分で落ちたの、こいつは。気が狂って、急に部屋のモノぶちまけた挙げ句に。

万紀子 …。

彩香 (更に力を入れるが) …何してんの？

万紀子 え？

彩香 めちゃくちゃ重い。死体なんだから。

万紀子 …。

彩香 何見てんのよ。手伝ってよ。そっち持って。

万紀子 そんなことできるわけないでしょ。

彩香 …いいの？

万紀子 いいって何が？

彩香 捕まるよね、私。このままだと。

万紀子 …それは、だって…。

彩香 結婚するんでしょ？

万紀子 それが何？

彩香 捕まったら根掘り葉掘り訊かれるよ。云っとくけど洗いざらいぶちまけるから、

私。

万紀子 …。

彩香 いいの？

万紀子 …。(通彦の足を掴む)

二人、力を合わせて通彦を持ち上げ、ベランダへ運んでいく。

重くて途中で乱雑に落としたりしながら、でも息を合わせて一心不乱に。空から何かが落ちてくるような飛来音。

溶暗。

終。